

事業報告書

一般社団法人 豊川青年会議所

2021年度 副理事長

観光グループ 担当

氏名 谷口 慶一



<本年度を振り返って>

観光グループは、交流人口拡大を目指し2つの事業を実施しました。一つは既にあるものを活かす事業として豊川稲荷及び周辺商店街を活かし、定期的な観光の仕組みづくりを目的とした「縁日参りプロジェクト」という事業を行いました。もう一つは新たに生み出す事業として、日本一「観光客が集まる道の駅」が豊川に将来誕生するよう勉強会を開催し、市政を動かす事を目的とした事業を行いました。

社会情勢が激しく変化する中で、メンバーをはじめ多くの団体、企業、行政の協力の元、大きな社会的反響を得ました。心より感謝いたします。

<稲荷どっと混む委員会>

「縁日参りプロジェクト」と題し、豊川稲荷及び周辺商店街を活かし、定期的な観光の仕組みづくりを目的とした事業は、クリエイティブカンパニーネイキッドとパートナーシップを結びニュースタイル夜間参拝「ヨルモウデ」という企画として2万人以上が来場者するなどして、全国的に報道される大きなプロジェクトとなりました。年末には豊川市長十大ニュース1位となりました。一過性に終わらせない新たな仕組みとして、実行委員会という組織も生まれ、青年会議所と共催の形を取り実施する事になり、今後も継続的に事業が行われる形となりました。賛否両論ある中で生まれた実行委員会ですが、持続可能な社会が求められる時代に、単年度制である青年会議所の取り組みの選択肢の一つとして大きな提案となったと考えます。

<日本一の道の駅委員会>

日本一「観光客が集まる道の駅」が豊川に将来誕生するよう勉強会を開催し、市政を動かす事を目的とした事業として、講師を招き計3回の構想勉強会を実施しました。豊川市長をはじめ、観光協会、ビジョンリサーチ、JA などの有識者を構想勉強会メンバ

一として、行政と直接的に知見を深めディスカッションを行う機会となりました。講師は、田園プラザ川場永井社長や、国土交通省、積水ハウス、スノーピークを招き、多角的な視点と幅広い実績の共有をしていただきました。豊川コンファレンスで、市長から明言をいただく事はできませんでしたが、構想勉強会をきっかけに、今後も座談会を実施する予定となっております。

<むすびに>

神谷理事、鈴木理事を中心に、観光という切り口からまちを良くする為の事業を実施し、大きな足跡を残す事ができたのではないかと感じています。特に社会情勢の変化に応じた難しい判断を求められるシーンが多く、「どうしたらやれるのか?」「なぜやるべきではないのか?」との戦いは大きなストレスがあったかと思いますが、強い絆に繋がった生涯忘れない一年になったのではないのでしょうか。

そんな両理事を各委員会メンバーもしっかりと支えていただき、最後までより良い形で実施できた事に心より感謝しています。また事業に参加していただいた協力者の方々、参加者の方々、メンバーに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。